

インフォメーションディスプレイ Vol.36



郡山駅西口再開発株式会社
企画部 次長

伊藤 三貴雄 様

郡山駅西口再開発株式会社 様

郡山駅前にそびえ立つ「ビッグアイ」は、福島県内随一の高さを誇るランドマーク。郡山市ふれあい科学館をはじめとする公共施設、県立郡山萌世高校、オフィスフロア、ショッピングゾーン“MOLTI”を擁する複合ビルです。7周年を迎えたこの春、エントランスにインフォメーションディスプレイが登場しました。



所在地・福島県郡山市駅前(旧G1「ビッグアイ」)

人の流れをつくる。コミュニティを活性化する。
情報ビジョンから、街づくりのビジョンが広がります。

PN-525 1台
PN-465×4台
導入

新しい郡山の日、「ビッグアイ」は、駅前再開発の核。そのエントランスに掲げられたインフォメーションディスプレイは、館内インフォメーションを超える存在です。

「当初はふれあい科学館の企画展の案内など、館内情報をメインに考えていましたが、蓋を開けてみれば、情報発信の場として使いたいという声が続々。コンテンツの幅も活用方法も想像以上に広がってきています。」
周辺の映画館や音楽の最新情報、ローカルCMの配信、さらにイベントプロモーションなど、さまざまな企画が持ち込まれて急展開。導入後わずかの間に、映像クリエイターを招いてのトークショー、新車プロモーションなどのタイアップイベントも成功させました。

「地域の方々や広告・マスコミ業界からの熱い視線には驚かされます。スペシャルコンテンツやイベントに注目が集まり、集客効果も見えてきました。」

迫力ある映像は注視度抜群。公募により“モルてい〜びい〜”という愛称も決定し、街づくりのシンボルとして存在感を放っています。



1Fエントランスには、4面マルチの「PN-465」。4画面表示と拡大表示を切り替えながら番組を放映している。可動式の筐体にセットし、イベントでは移動して使用する。

導入時の評価ポイント

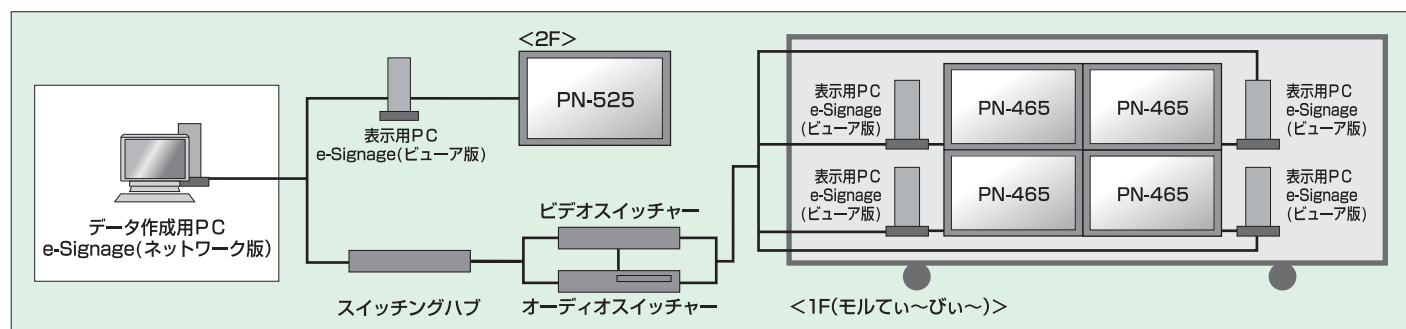
■ きめ細かな情報表示を可能にする
フルスペックハイビジョン

■ 明るい店舗でもくっきり見られる
ASV低反射ブラックTFT液晶

■ 複数台を組み合わせられる
マルチモニター機能

■ 表示内容を手軽に作成・修正できる
コンテンツ配信/表示システム「e-Signage」(イーサインエジ)

■ システム概略図



導入の経緯 運用のしやすさに注目

2月に導入を検討し始め、GWには早くもお目見えしたモルてい〜びい〜。異例のスピードの裏には、どんな事情があったのでしょうか。

「そもそもは販促スタイルを変える一つの手段として、販促計画の中で企画しました。使い捨ての装飾やPOPを映像での演出に切り替えれば、コストが抑えられますし、少ない投資で発展性のある販促が展開できると。」

急ピッチでシステムの検討が進む中、最も

こだわったのは運用に関わるユーザビリティです。

「せっかく導入しても、上手く運用できなければ意味がないですから。実際、大変なのは編集です。その点、e-Signageは使い勝手が良く、パソコンに詳しくなくても番組編集や配信管理が簡単にできます。」

モニターの耐用性も重要な検討材料でした。「度々交換できるものではないですから、長く使えて信頼性が高いものを選ぶのは当然ですよ。」



コンテンツ管理は3Fのオフィスで。ネットワーク型のe-Signageを使用し、タイムテーブルと配信スケジュールを管理。表示レイアウトやテロップの挿入など、コンテンツ編集も簡単。

導入後の感想 映像の求心力を実感

駅前のホットスポットは、地域に大きなインパクトを与えました。足を止めるお客様も多く、イベントも大盛況。

「何より、人が集まってきて、いろんな提案をしてくれるのがありがたいです。注目され人が集まるのですから、販促策としての費用対効果も十分。より一層コンテンツを充実させ、システムのパフォーマンスを最大限に引き出して、新鮮さを保っていく

ことが課題ですね。」

モルてい〜びい〜はいわゆる広告媒体ではないため、使い方にしぼりがありません。自治体や地元企業、映像制作のプロと連携することで、さまざまな活用が期待できます。

駅から直結する2Fのエントランス。天吊りの「PN-525」が来館者の目を引く。



今後の展開予定 市街の活性化へ向けて

まず、モルてい〜びい〜前を待ち合わせスポットに。商品プロモーションや映像作品の発表のステージとしても、どんどん活用していく予定です。さらに、人の流れをつくるインフォメーションへと構想が膨らんでいます。

「ゆくゆくは駅ナカも巻き込み、駅前全体をネットワークしたいと思っています。設置場所によっては看板やポスターのような使い方ができますし、ポイントを絞ったデジタルサイネージが可能だと思っています。」

楽しい情報、役立つ情報のあるところには人は集まり、その賑わいがさらに人を引きつけ、街は生き生きと動き出します。見せるインフォメーションは人を動かす導線を創り、街の活力を高める重要な役割を果たすことでしょう。

●お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03)3260-8217 / (0743)55-6373

2008年8月発行